

すみよし



Yasui. T

2007年 イースター号

171号

聖句

愛には恐れがない。

完全な愛は恐れを締め出します。

なぜなら、恐れは罰を伴い、

恐れる者には愛が全うされていないからです。

わたしたちが愛するのは

神がまずわたしたちを愛してくださったからです。

ヨハネの手紙 I 4・18-19



【新しい旅立ち】

パウロ・セコ神父

《過ぎ越し》

旧約聖書の中に、教会の創立の基となった大切な出来事が記されています。それは出エジプト記にある「過ぎ越し」です。奴隷の状態にあったイスラエルの民は、神に救いの叫び声を上げ、彼らのその叫びに答えて下さった共におられる神を強く感じました。その時からイスラエルの民は、神が救いの力をもたらし、私たちの間を過ぎ越されたと述べ伝えていきます。イスラエルの民は、神と自分達との原点である「過ぎ越し」の神秘を強く感じ、神に信頼し、約束の地へと出発したのです。実に40年というとてつもなく長い旅でした。長い歩みの中で、時には神を見失い、民の中にさまざまな摩擦が生じ、絶望にも陥りました。しかし彼らは歩き続け、エルサレムを建設し、今のユダヤ人となりました。

《復活》

旧約の時代を共有する私達の信仰は、このユダヤの教えに基づいています。イエスご自身もこのユダヤ教の世界に生き、過ぎ越しという出来事を深く悟っておられました。イエスの生き方を聖書に捜すと、聖ペトロと共に『イエスは方々を過ぎ越して人々を助け、苦しんでいる人たちをすべて癒されたのですが、それは、神がご一緒だったからです』(使徒10、38)とすることができます。また、その死に方を眺めると百人隊長と共に『本当に、この人は神の子だった』と言う思いを同じくし、復活されたイエスを捜しに行くことができるようになります。その時から、私達は「過ぎ越し…神が過ぎ越されます。私たちの間を」ではなく「復活…神が生きておられます。私たちの間に」と生き方の転換に招かれるのです。初めから、「過ぎ越し」も「復活」も、それは決して留まることなく、常に出発することを意味しています。

《捜し求めて旅する教会》

イエスの受難と死が終わったとき、弟子達は恐れを抱き、自分達のいる家の戸に鍵をかけ、息をひそめていました。しかし、マグダラのマリア達が見たことを聞き、彼らも走って主を捜しに行きました。葬られたイエスを見つけられなかったマリアや弟子達の嘆きに、イエスは「なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか」と尋ねられました。しかし彼らは、それが主だとは気づかず、捜し求め続けたのです。嘆きや悲しみの淵に沈んでいる私達人間に、神は常にどうしたのかと尋ねてくださいます。その声私達は動き始め、振り向き、振り返る、そして立ち上がり、旅が始まるのです。その時、イエスの招く声が聞こえてきます。「恐れることはない。ガリラヤに行きなさい」(マタイ 28-10)。

「ガリラヤ」そこは異邦人の世界です。つまり、私の世界とは全く異なる所です、相手の世界です。それは、私達が兄弟的な世界を作るために派遣されているという意味なのです。出エジプトでの約束の地はカナンでした。しかし、私達にとっては、キリストが最初であり、最後である完成されたキリストの体です。私達はキリストの体を構成する部分で、この体を生き生きと活かすことのできる原動力こそ、神のみ心です。即ち、私たちにとっての約束された地は、神のみ心が充満する兄弟的な世界なのです。

《新しい出発》

弟子達は、イエスの復活を恐れや喜びという相反する複雑な思いの中に、その姿を求めて走りました。「復活」という言葉の中には、いつも、そのような思いがこめられていますが、同時に「新しい出発」「船出」という意味も含まれています。

私パウロは、新しい土地(生まれ故郷ですが)で、全く新しい活動を始めます。皆さんも新しい心の状態で、人々の間におられるイエスを見つけ出す活動を始めてください。自分の中に閉じこもっていても、イエスには出会えません。

「さあ、出発しましょう！」

エマオへ向かう弟子達のように。歩きながら、話し合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいて来て、一緒に歩き始められます。そして隣人とパンを分かち合うと、心が燃えてイエスに出会うことができるのです。

「復活」は「過ぎ越し」であり、「新しい旅立ち」です。

今年も聖霊の導きを願いながら聖霊降臨の日まで良い復活節を！



《心に残ったパウロ神父様の言葉》

(聖書 100 週間とミサの中から)

神を求めることはやすらぎの源
神を求める時間をもっと作らないと！

「主は皆さんと共に」というミサの中の言葉をもっと重く受け止めなければ。
困難な時に神様は私たちを背中に乗せて下さるのです。

実りは神様に、次の時代に任せて
私たちは実りを探さないでやるべき事をする。

一人一人の力には限界があります。
皆でそれを補い合うのが共同体の素晴らしいところです。

我々は計画を立てて人生を歩んでいるけれど
何かが起こって計画を変えないといけないことは多い。
耳を開いて神の言葉を聞かなければいけない。
神に出会うとき、私たちの計画は変わる。
聖霊の導きを素直に聞くこと。

ミサにあずかるとき、良いことも良くないことも
一週間分の出来事をみんな祭壇の上に置きましょう。
神様に信頼してどんな出来事も恵みとして受けましょう。

自分の心ではなく御心を聴きましょう。
神は皆を支えて、なだめて、励まし、護り導いて下さっています。
和解、許しへの招きを聴きましょう。



[目次](#)

《 目 次 》

☆ <u>聖句</u>2
☆ 『 <u>新しい旅立ち</u> 』パウロ・セコ神父3
☆ <u>心に残ったパウロ神父様のことば</u>5
☆ 目次6
☆ パウロ神父様感謝致します(6)
☆ ベンガルの祈り(7)
☆ <u>第3回生涯養成より「信徒が働く」</u>7
☆ <u>新園舎と共に</u> 教諭・香川 弥由記(みゆき)9
☆ <u>聖人伝 聖ヨゼフ</u>11
☆ <u>四旬節の祈りから</u>12
☆ 教会学校 神父様さようなら(14~17)
☆ 教会学校 保久良山遠足(18)
☆ 写真のページ	
成人式おめでとう(19)
新年会から(20~21)
新生の日祈念ミサより(22)
パウロ三木、新ルルドの祝別(23)
洗礼祈願式、世界病者の日(24)
阪神地区エキュメニズム 世界祈祷会	
灰の水曜日の式から(25)
☆ 入信記(26)
☆ チーム便り「聖歌隊」(27)
☆ <u>図書コーナーより</u>13
☆ 教会で会おう(神戸地区大会お知らせ)(29)
☆ 信徒動静(30)
☆ 教会日誌(31)
☆ <u>後記</u>14

題字: 千葉 健吉
表紙画: 多月 弥生

太字はこのホームページ掲載 PDF ファイルのページ、カッコつきは原本のページです。

「第三回生涯養成テーマ」2007年3月11日(日)10:15～

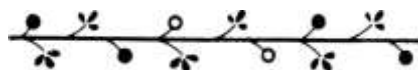
《 信徒が働(はたら)く 》

評議会議長 氏家 友三

住吉教会の「生涯養成」は「基本的」に隔月・奇数月の第2日曜日の主日ミサ後に開かれます。昨年11月、本年1月と3月に3回行われ、次回は今の所、第4回「生涯養成」は5月13日、第5回は7月8日に行われる予定です。(変更がある場合は事前に連絡します。)場所は教会ホール、有志の方々心づくしのお茶も用意され、信徒の交流の場、学びの場となるようにとの主旨で開かれています。

2ヶ月に1回開催の「生涯養成」ですから、主日のミサに与かる信徒の皆様は、少し「心と時間のゆとり」をもって、できるだけ多く参加しましょう。そして「よりよい未来の住吉教会」づくりに、「信徒の働き」に積極的に参加しましょう。

第3回は「信徒が働(はたら)く」というテーマで、これからの住吉教会(神父様不在)の目前にせまった数々の問題が話し合われました。自分はどのような働きが出来るか・・・考えてみたいと思います。以下はそのときのプリントです。



- * 今までの教会は司祭や修道者が中心に動いてきました。これからは信徒が担う働き、即ち「信徒奉仕職」がとても大切になってきます。(第1回で学習)
- * 「信徒の働き」には「自発的な奉仕」や教会から任命される「奉仕職」等があります。
- * これからの住吉教会がまさにそれが必要になってきます。
住吉教会は4月以降、神父様が不在となる事が予想されます。信徒の皆様の働きで、朝夕に皆様が聖堂・小聖堂で祈りを捧げることが出来るように致しましょう。
- * 今後の住吉教会では、信徒の一人ひとりがこの「働き」に参加し、それぞれがその「役割を分担」し、全体として「チーム」として「働き」を進めていく事が大切です。
- * その大切な「信徒の働き」について具体的に、みんなで考えて、話し合ってみましょう。
- * 今日は、これからの住吉教会(小教区)で毎日、毎日の奉仕で何が必要か、我々一人ひとりがどんなに小さな事でもよいので、どんな働きが出来るのか、最も身近なところで、「超具体的」に考えてみましょう。
- * これからの住吉教会で毎日、何が必要になってくるでしょう
みんなで考えましょう。一人ひとりがどんな事が出来るか。例えば
 - ① 毎朝・毎晩の「教会聖堂の鍵開け・閉め」
 - ② 毎朝・毎晩の「教会門扉の鍵開け・閉め」(玄関のレール柵二つ通用門)
 - ③ 毎日事務室の受付、電話」の実施が可能か(信徒の働きで現在水曜日実施中)(1人1人が可能な曜日と時間帯で参加/皆を合わせて毎日可能な所迄増やせるか)

- ④ 毎日の郵便物の受取り(取入れ)、整理
- ⑤ 聖書学習グループへの呼びかけ
- ⑥ 「聖堂の清掃」への参加(毎週土曜日に実施のシステムあり)
- ⑦ 「教会ホールの清掃」への参加(毎週月曜日実施のシステムあり)
- ⑧ 「病者への訪問・激励」への参加(の可否)(レジオでのシステムあり)
- ⑨ 教会への諸行事には都合で参加できないが、「人々のために祈り」を捧げる
- ⑩ 「家庭集会を開く」(都合で主日のミサに参加できない人々の為に、都合のいい時間帯で集まれるように地域で検討)

これからの「よりよい未来の住吉教会」を作るためには「信徒が働く」事が大変重要になってきています。上記の他にもどのような参加の方法があるかご意見をお聞かせ下さい。





新園舎と共に

星の園幼稚園 香川 弥由記

3月、暖かな日差しの中、たくさんの愛に見守られ51名のぴかぴか光る星の子たちが、無事卒園式を終えました。

旧園舎で過ごした事のある最後の子どもたち。旧園舎から新園舎へ移り卒園を迎える最後の一年には、教会もでき 子どもたちも聖堂に足を運ぶことができました。

初めて新園舎に移ってきた頃は子どもたちだけでなく、私たち職員も慣れるのに時間がかかり、また予想を超える子どもたちの活動力に、いくつかの新しいお約束も増えました。いかに安全に、またスムーズな流れで子どもたちが園生活を送る事ができるか、それが私たちに与えられた課題でした。

そして2006年には久しぶりの幼稚園 園庭での運動会。クリスマス会、卒園式は新しい聖堂で行いました。

春に満開の桜の下、桜の花びらを、秋には黄色に染まった、いちょうの葉を集める子どもたちの笑顔は、景色が変わった今も変わることはありません。

2階に保育室ができた事で、最初は階段を上がり下りする子どもの姿にヒヤヒヤしていました。特に年少児の子どもたちはスムーズに上がり下りするのに時間がかかりました。その反面、「お兄ちゃん、お姉ちゃんになったら上のお部屋に行くんだ」と、目を輝かせ楽しみに待つ姿は微笑ましく、また私たちの気持ちを引き締めてくれました。

神様が守って下さる幼稚園として、私たちは日々の生活の中で子どもたちに神様の事を伝えるという大切な使命があります。

許すこと、相手の事を思う気持ち等、神様のお話の時間だけでなく、子どもたちとの関わりの中でチャンスを見つけ、伝えています。そんな、子どもたちに伝えるべき立場の私たちも、子どもたちに教えられることが

たくさんあります。

泣いているお友達に、そっとハンカチを貸してあげたり、かけっこで走るのが苦手な小さいお友達の手を引いて一緒に走ってあげたり…子どもたち自身から自然に出るやさしい心こそ見習わなければならないものだと思います。病気で休んでいるお友達のために、マリア様の前でお祈りをする姿には胸が熱くなりました。

“イエスさまのような つよいところ
マリアさまのような やさしいところに
なれますように”



新しい園舎になっても変わることなく、この園のお祈りのような心を子どもたちの中に育てていきたいと思っています。



星の園幼稚園 クリスマス会 2006.12.15

《 聖 人 伝 》 聖ヨゼフ

3月19日は聖ヨゼフの祝日です。カトリック教会の聖人方の中で、最も知名度の高いお一人であり、聖書にも重要な登場人物とされておりますが、そのお言葉は何一つ記されておらず、「沈黙の聖人」と言われています。

まず、聖ヨゼフは神の御母マリア様のご夫君であり、御子イエス様のご養父として選ばれたお方でした。そのご職業は大工という労働者、額に汗して賃仕事に従事されていた謙遜な方。マリア様同様、ダビデ王家につながる高貴な家系の出であったと記されています。

マタイ伝の1、2章には聖ヨゼフの様々なご苦勞が書かれています。ベトレヘムへの住民登録の困難な旅。混雑の中で全ての宿屋から、満員につき空き部屋無しと断われ、独り身ならばともかく、臨月のマリア様を抱えて、ヨゼフ様はどんなにか切迫したお気持ちでおられたことでしょうか。必死で探し回り、ようやく行きついた洞窟の家畜小屋でのご出産…。ワラを敷いた急ごしらえのベビーベッドの飼い葉桶にスヤスヤと眠っていらっしやるみどり子イエス様のお姿は、2000年経った今も、クリスマスのグリーティングカードに欠かすことなく世界中に愛を届けています。

その後、聖家族はユダヤの王ヘロデの魔の手から逃れる為、家も仕事も友人達も全てそのまま捨てて、エジプトへの逃避行が始まります。天使が夢でヨゼフ様に急を告げられた直後、「ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた」(マタイ2:14~15) 聖ヨゼフの決断の早さ、行動力が幼いイエス様を救いました。

ご家族がナザレへ帰られてから、ヨゼフ様はもう一度大きな試練を受けられます。12才のイエス様をエルサレムの神殿で見失われ、マリア様と共に必死で探し回られた時のお二人のご心配、ご心痛はどれほどであったことでしょうか。やっと探し当てた時のイエス様のお返事も理解に苦しむものでしたが、「母はこれらのことを全て心に納めていた」(ルカ2:41~52)ヨゼフ様も同様に黙々と思いめぐらしながら、働いておられたことでしょうか。

イエス様は伝道の公生活に入られる前に、養父ヨゼフ様を看取られたと言われています。御子と聖母に愛情深く見守られ、イエス様の育ての親としての重責を果たされた聖ヨゼフを臨終の時の守護者として、私たちは毎晩祈ります。「イエス、マリア、ヨゼフ、臨終の時、私たちに援け、守り給え」と・・・。

—編集部—



[目次](#)



今年の「四旬節の祈り」は聖書 100 週間の方々が捧げられました。

四旬節第 1 主日の祈り

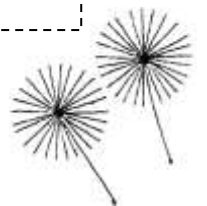
マタイはキリストの宣教について、イザヤの預言を引いて次のように述べています。(12 章 18~19)

みよ、わたしの選んだ僕 わたしの心に適った愛する者
この僕にわたしの霊を授ける 彼は異邦人に正義を知らせる
彼は争わず、叫ばず、その声を聞くものは大通りにはいない

キリストは御父のみ言葉を伝えるためにこの世に来られました。
そして、私たちは洗礼を受けた時から神の御言葉を伝える者となりました。
悪は人生の痛みや不和、寂しさそして豊かさの中にまで忍び込みます。
その中で個人として私たちが出来ることは何でしょうか。
頂いた信仰の喜びを伝え分かち合うために、私たちは待ち受ける誘惑を
超えて神の呼びかけに答えたいと思います。どうぞ聖霊の力でわたしたち
を導いてください。

四旬節第 3 主日の祈り

世界中には戦争や貧困、虐待、差別などに苦しむ人が沢山おられます。
私達は平和な日本で平和を当然のこととして受け止めています。
その中であっても神さまから離れたできごと、問題が多くあることを
忘れてはなりません。
子どもや周りの人に対する思いやり、愛に欠けることはないでしょうか。
私達の主、イエス・キリストに対しても、神のはからいを読み取れず
目の前の事に忙しく、神の声を聞いて、待つこと、頑張ることが出来て
いません。
私達が絶えず神さまの呼び掛けに立ち帰り、何事にも失敗を恐れず
ゆったりと受け止め、忍耐強くなれますように。
あわれみの神様を信頼し、賛美と感謝をささげます。
聖霊の導きによって私達に道を示してください。



[目次](#)

《 図書コーナーより 》

階段を上った所、2階フロアの明るい静かなスペースに図書コーナーが作られています。

新しく購入した書、ご寄贈くださった書などをプラスして、少しずつ充実してきております。

ゆったりとした椅子も用意してあります。貸し出しもできますのでどうぞご利用下さい。

『今月ご紹介の本』

◎人生の北極星

女子パウロ会刊

小林敬三 (東京教区 西千葉教会 司祭) 著

この本は著者の主日のミサの折の説教集です。

一つのお説教がほんの2~3ページにまとめられていて、どこからでも開いて読むことができます。

著者の体験、身近にあった出来事など具体的に例をあげて「みことば」と共に平易に語られています。

「子どもの為の本から」(昔子供だった方にもぴったりです)

◎こどものための聖書物語

小学館刊

フィリップ・ターナー 文
ブライアン・ワイルドスミス 画
三浦朱門・曾野綾子 訳文

◎トルストイの民話

女子パウロ会刊

岩崎 京子 文

◎帰ってきた わがままむすこ

中央出版社

かげやまあつこ 文
まつもといさむ え

◎コルベ神父物語

聖母の騎士社

曾野 綾子 文
西島 伊三雄 画



目次

【 後 記 】

新しい聖堂で初めて迎えるイースターは大きなお恵みでありますと共に喜びです。2003年から旧聖堂、仮聖堂と新聖堂まで4年間、深い愛情と若々しい爽やかさで私達を暖かく導いて下さいましたパウロ神父様に感謝致します。

ありがとうございました。

スペインに帰国されてもお元気でご活躍くださいませ。

“Hasta la vista”(また会う日まで)

お目にかかれる日を楽しみにしております。

A. M.



昨年のご復活祭の頃、思いがけなく広報チームの一員に加えて頂きました。広報チームといえば“すみよし”発行とすぐ頭に浮かび、「えっ、そんな事私に出来るのかしら」と不安を感じながらも神様が示して下さいているのだと思い、及ばずながらお手伝いさせて頂いています。2階の図書コーナーの係りもしておりますので皆様どうぞご利用ください。“すみよし”の発行はチームの熱意と信徒の方々のご協力によって出来上がっていくことを実感いたしております。

今までなんとなく読んでいた記事も一字一句よくかみしめながら読んでまいりたいと思っています。

S. H.

「すみよし」第171号

発行日: 2007・4・8

編集・発行: 広報チーム

編集責任者: 竹内和美

発行所: 神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23

カトリック住吉教会

TEL: 078-851-2756

FAX: 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>



[目次](#)